銅・アルミ市況見通し 12月

橋本アルミ取締役 橋本 健一郎氏レポート

銅

10月の伸銅品生産（速報値）は、前年同月比で6・6％減の6万3320㌧で、10カ月連続のマイナスだった。2カ月続けての6万㌧だったが、マイナス幅はじわりと拡大している。

10月の銅線出荷量は同4・7％減の5万2700㌧で、うち国内が同4・5％減、輸出が同15・3％減だった。

銅輸出は、電気銅が同16・4％増の5万6416㌧、銅スクラップが同13・3％減の2万5413㌧。

10月の銅スクラップ輸出量は2万7886㌧で4カ月続けて3万㌧を下回った。昨年後半から3万㌧割の月は2回しかない。その前の1年がほとんど3万㌧超だったことと比較しても、輸出量の減少がわかる。

銅輸入は、電気銅が同41・4％増の7099㌧、銅スクラップが同18％増の1万2522㌧だった。

12月銅市況予想レンジ		
LME銅セツルメント	8000～9000㌦	強い
電気銅建値	110～130万円	強い
為替（1㌦）	135～140円（1カ月間TTM）	円高

銅スクラップ需況予想

11月の電気銅建値は、月初の117万円から一時125万円へと上昇、その後118万円と推移した。

米FRB利上げによる不透明感や中国ゼロコロナ策での主導体需要減などの影響から生産が減少、スクラップ発生減から、流通（一次問屋）の在庫は品薄となった。需要面は中国ゼロコロナ政策緩和に伴う生産の大幅回復で、急増すると見ている。

LME銅・為替予想

今月は「米欧の金融政策」「中国のロックダウンなどゼロコロナ対策の動向」に左右されそう。

前者では、米国はパウエル議長が先月30日の講演で早ければ今月の会合で利上げ幅縮小を示唆。その上でインフレ率は依然高すぎるとして、利上げなどの金融引き締め継続する考えを改めて強調した。

後者は、ゼロコロナ策への反発が全国規模で起こり、上海の制限が解除された。副首相は保健当局の会議で「ゼロコロナ」目標について言及せず、感染対策の適正化をさらに進める考えを示した。中国政府は今後、感染対策を緩和すると見ている。

アルミ

10月のアルミ圧延品生産量（板類・押出類合計）は同4・4％減の15万4391㌧で7カ月連続のマイナスだった。

生産量は板類が同2・4％減の9万6111㌧、押出類が同7・5％減の5万8275㌧だった。

10月のアルミニウム二次合金・同合金地金生産は同5・5％増の6万5942㌧（2カ月連続のプラス）。出荷は同6％増の6万6613㌧（2カ月連続のプラス）だった。

輸入はアルミ新地金が同15・1％減の10万2486㌧、アルミ二次合金が同19・5％減の8万9102㌧、アルミスクラップが同88・2％増の3817㌧、アルミ二次合金・アルミ合金スクラップが同33・6％減の1万5651㌧、アルミスクラップが同15％増の3万4074㌧、アルミ箔が同20・6％増の7079㌧。

アルミ輸出は、中国向けが増加した。

アルミ輸入は、円安からスクラップが増加した。

12月アルミ市況予想レンジ		
LMEアルミ（現物後場買い）	2300～2500㌦（現物後場買い）	強い
スクラップ	ゼロ円～プラス5円（前月最終価格より）	強い

アルミスクラップ景況予想

欧米の金融引き締め策に伴い、LME価格は2200～2400㌦と低位安定。「流通（一次問屋）」の入荷は、自動車産業が回復基調にあるものの住宅着工の低迷で少ない見通し。

今後の需要面は中国のゼロコロナ政策の緩和により、自動車の挽回生産が進行するものと期待される。

世界の23年半導体市場 4年ぶりマイナス 4.1％減、5566億ドル WSTS予測

世界半導体市場統計（WSTS）がまとめた23年秋季半導体市場予測によると、2022年の世界半導体市場は前年比4・4％増の5801億㌦となり、成長が大幅に減速すると予測した。世界的なインフレ進行や中国の低需要が低迷すると見込まれることから同4・1％減の5566億㌦と4年ぶりのマイナス成長になると予測した。

23年は22年途中からの市況悪化の影響が継続し、年前半は半導体の在庫調整が続くことが影響している。

22年の地域別市場予測は、米国が同17％増の1421億㌦、欧州が同12・6％増の538億㌦、日本が同10％増の481億㌦、アジア・パシフィックが同2％減の3362億㌦と予測した。23年は米国が同0・8％増の1433億㌦、欧州が同0・4％増の540億㌦、日本が同0・4％増の483億㌦、アジア・パシフィックが同7・5％減の3110億㌦と予測した。

22年の製品別市場予測は、ディスクリートが同12・4％増の341億㌦、オプトが同12・4％増の438億㌦、センサーが同16・3％増の223億㌦、IC全体が同3・7％増の4800億㌦と予測。23年はディスクリートが同2・8％増の351億㌦、オプトが同3・7％増の454億㌦、センサーが同3・7％増の231億㌦、IC全体が同5・6％減の4530億㌦と予測している。

米国CRSのアルミ産業レポート（上）

製錬業はコスト高で縮小

米国の議会調査局（コングレッショナル・リサーチ・サービス＝CRS）は10月28日、米国のアルミ産業動向をまとめたレポート「USアルミナム・マニュファクチュアリング・インダストリー・トレンズ・アンド・サステナビリティ」を公表した。2000年以降の米国のアルミ製錬や二次合金、圧延マーケット動向や今後の重要テーマとなるカーボンニュートラル政策、政府の関税政策にも触れている。同レポートの一部を紹介する。

アルミ製錬業

米国のアルミ産業はサプライチェーンの多くの部分でカナダと高度に統合されている。カナダ産アルミ地金の大部分は米国に輸出されている一方、米国のアルミ半製品の約半分はカナダに輸出されている。こうした両国の産業のつながりは非常に重要となっている。

2000年までアルミ製錬で世界首位だった米国だが21年には9位まで下落し、世界シェアは2％未満に過ぎない。一方でカナダは4位で世界シェア5％を占める（世界シェアの約半数は中国）。米国とカナダの合計生産量は2000年から16年までに33％減少したが、16年以降は比較的安定して推移している。

米国のアルミ製錬能力は21年が164万㌧で稼働率は55％にとどまった。一方、カナダは327万㌧の能力がほぼフル稼働していた。アルミ製錬能力が低下した主な理由は製錬コストの高さ。

製錬で使用するボーキサイトは豪州やギニアに集中しており、米国は21年に360万㌧を輸入した。このうち7割がアルミ精錬に使用され、残る部分は建材やセメント、化学品などに使用された。

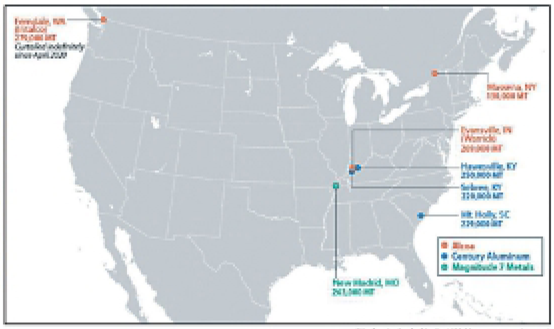
米国のアルミ製錬所の多くは、連邦政府が所有する電力会社からの安価な電力供給で成長してきたものの、電力料金引き上げにより多くの製錬所が閉鎖した。2000年に12社23工場が稼働していたが、21年末にはアルコアとセンチュリーアルミナムの2社6工場となった。

米国のアルミ製錬設備は、いずれも老朽化が目立っている。世界の製錬設備はエネルギー効率の高い技術を使用しているほか、米国で最も新しい工場はセンチュリーのマウント・ホリー工場（サウスカロライナ州）だが、1980年の稼働から40年以上が経っている。

21年にアルコアはアルミ、マグニチュード7・メタルズの3社6工場（実質的には5工場）を保有。世界銀行によると、1㌔時当たりの電力コストは米国が平均0・163㌦であるのに対し、カナダが0・1㌦、ロシアが0・081㌦、UAEが0・109㌦とされている。

また現在はアルコア、センチュリーが保有する製錬工場を持つカナダ、アイスランド、ノルウェーで水力や地熱発電を利用した製錬所を運営しているが、欧州の製錬所はウルフ・エクイティ・パートナーズが1億7500万㌦を投じて稼働の活性化を目指す動きがある。

21年の米国アルミ製錬拠点



※数字は生産能力（単位：メトリックトン）

米国の9月アルミ輸入 1割増、49万5000㌧ ロシア品は97％減

米国の9月のアルミ輸入量（地金・新地金・二次合金、圧延品、板類など、スクラップ含む）は、前年同月比10・2％増の49万5千㌧だった。前年実績を上回るのは21カ月連続。UAEのアルミ地金が3倍以上の伸びを示すなど中東や豪州の新地金が伸び、前年同月に1万2千㌧を記録していたロシアは97％減の320㌧に急減した。

圧延品は20・8％増の12万8千㌧だった。カナダ製品は14・6％減の1万7千㌧だったが、中国製が同49％増の2万2千㌧、韓国製が3・4倍の1万300㌧に増えた。

スクラップは14・0％減の5万200㌧。主力のカナダは2・8％減の3万3千㌧、メキシコ品も13％減の1万4200㌧だった。

9月の米国アルミ輸入実績				
（単位：トン、カッコ内は前年同月比増減、▼は減）				
主要国	新地金／二次合金	板類／押出等（圧延品）	スクラップ	合計
カナダ	208,000（▼8.5）	17,000（▼14.6）	33,000（▼2.8）	258,000（▼2.7）
メキシコ	1,200（23.7）	5,950（▼1.3）	14,200（▼13.3）	21,300（▼13.4）
アルゼンチン	13,800（▼43.4）	50（▼23.8）	0（−）	13,800（▼43.4）
日本	0（−）	4,450（8.9）	13（−）	4,460（1.1）
韓国	3,080（74.0）	10,300（3.4倍）	0（−）	13,400（2.8倍）
中国	285（3.6倍）	22,300（49.0）	203（2.1倍）	22,700（52.3）
インド	5,600（2.3倍）	1,300（15.0）	0（−）	6,900（84.0）
豪州	10,700（66.1）	56（38.2）	0（−）	10,800（65.7）
バーレーン	25,600（66.2）	3,840（88.3）	0（−）	29,400（68.2）
UAE	53,500（3.4倍）	675（57.3）	0（−）	54,200（3.4倍）
ドイツ	38（▼66.5）	4,330（46.8）	248（▼4.2）	4,630（32.1）
ロシア	320（▼96.7）	41（▼97.1）	0（−）	361（▼96.7）
全体合計	317,000（11.2）	128,000（28.8）	50,200（▼14.0）	495,000（10.2）

※（−）は比較できず

米国の1～9月アルミ需要 6％増、953万㌧

米国アルミニウム協会は、2022年1～9月の北米（米国、カナダ）アルミ需要（国内出荷＋輸入量）は前年同期比6・3％増の953万㌧だった、と発表した。出荷量はプライベート・ブランド込みの推定で約952万5千㌧（210億ポンド）だった。主要分野の製品需要ではアイデアなどで輸送向けが同8・4％増と全体を引っ張ったほか、輸出向けも11・7％増えた。

7～9月期の需要は4～6月期に比べて2・1％減と減速したものの、前年同期比では7・0％増の317万㌧（70億ポンド）だった。

銅、米欧金融政策など注目

海外非鉄週況（12月5～9日）

【ロンドン時事】先週のロンドン金属取引所（LME）の銅市場では、米欧の金融政策や中国の経済指標などが手掛かり材料となりそうだ。中国の新型コロナウイルスに関する規制動向や感染状況にも引き続き注目が集まるとみられる。

今週の銅相場は、中国で「ゼロコロナ」政策を緩和する動きが広がったことを好感し、総じて堅調に推移した。11月の中国貿易統計で輸出入が急激に落ち込み、アルミなどは一時売られたが、銅相場への影響は限定的だった。米利上げペースの減速観測を背景としたドル安の進行も銅の支援材料となった。

来週は14日に米連邦公開市場委員会（FOMC）の声明発表とパウエル連邦準備制度理事会（FRB）議長の会見、15日に欧州中央銀行（ECB）定例理事会とラガルド総裁の会見がそれぞれ予定されている。世界的に景気後退懸念が広がる中、インフレ抑制に向けて積極的な金融引き締めを続けてきた米欧中銀の姿勢に変化があるかが注目される。

経済指標では、13日発表の11月米消費者物価指数（CPI）のほか、15日の11月中国鉱工業生産が焦点となる見通し。中国の製造業の活動が想定より落ち込むとの見方が強まれば、需要が鈍化するとの懸念から、銅相場の重しとなりそうだ。

LME週間推移						
現物・3カ月先物とも前場終値＝公式価格　単位：トン当たりドル、日付はロンドン現地時間						
【2022年12月5～9日】						
		現物		3カ月先物		
		【買値】	【売値】	【買値】	【売値】	出来高
銅（グレードA）	5日	8,439.50	8,440.00	8,465.00	8,470.00	104,924
	6日	8,335.00	8,335.50	8,398.00	8,400.00	97,930
	7日	8,333.00	8,334.00	8,370.00	8,375.00	101,133
	8日	8,536.50	8,537.00	8,545.00	8,547.00	135,039
	9日	8,490.00	8,490.50	8,524.00	8,525.00	122,580
錫	5日	24,425.00	24,475.00	24,180.00	24,200.00	4,581
	6日	24,595.00	24,600.00	24,400.00	24,450.00	3,552
	7日	24,375.00	24,475.00	24,275.00	24,325.00	3,619
	8日	24,300.00	24,400.00	24,200.00	24,250.00	4,436
	9日	24,650.00	24,700.00	24,575.00	24,625.00	3,386
鉛	5日	2,183.50	2,184.50	2,212.00	2,214.00	38,881
	6日	2,209.00	2,210.00	2,226.00	2,228.00	38,413
	7日	2,205.00	2,206.00	2,222.00	2,224.00	35,983
	8日	2,197.00	2,199.00	2,216.00	2,218.00	45,457
	9日	2,206.00	2,207.00	2,220.00	2,222.00	43,482
亜鉛（SHG）	5日	3,120.00	3,120.50	3,114.50	3,115.50	71,331
	6日	3,185.00	3,187.00	3,160.50	3,161.00	87,380
	7日	3,138.00	3,140.00	3,112.00	3,113.00	107,385
	8日	3,240.00	3,242.00	3,216.00	3,216.50	93,921
	9日	3,245.00	3,247.00	3,217.00	3,219.00	98,486
ニッケル	5日	28,335.00	28,365.00	28,595.00	28,605.00	31,172
	6日	28,200.00	28,250.00	28,300.00	28,350.00	32,780
	7日	28,700.00	28,725.00	28,900.00	28,925.00	52,449
	8日	31,050.00	31,075.00	31,250.00	31,300.00	55,885
	9日	29,825.00	29,850.00	30,000.00	30,050.00	66,068
アルミ（HG）	5日	2,484.50	2,485.00	2,513.00	2,517.00	238,887
	6日	2,460.50	2,461.00	2,490.00	2,490.50	213,081
	7日	2,450.00	2,450.50	2,476.50	2,477.00	229,676
	8日	2,467.50	2,468.50	2,496.00	2,498.00	253,034
	9日	2,453.00	2,453.50	2,487.50	2,488.00	201,351
アルミ二次合金	5日	1,850.00	1,860.00	1,850.00	1,860.00	0
	6日	1,850.00	1,860.00	1,850.00	1,860.00	0
	7日	1,850.00	1,860.00	1,850.00	1,860.00	0
	8日	1,850.00	1,860.00	1,850.00	1,860.00	0
	9日	1,850.00	1,860.00	1,850.00	1,860.00	0
北米アルミ特定合金（NASAAC）	5日	2,376.00	2,386.00	2,380.00	2,390.00	0
	6日	2,377.00	2,387.00	2,380.00	2,390.00	0
	7日	2,377.00	2,387.00	2,380.00	2,390.00	0
	8日	2,378.00	2,388.00	2,380.00	2,390.00	0
	9日	2,378.00	2,388.00	2,380.00	2,390.00	0

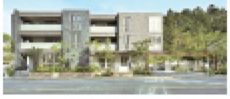
＊出来高はロット、1ロットは銅25㌧、ニッケル6㌧、アルミ二次合金・NASAAC 20㌧、その他25㌧

COMEX銅建値推移						
（単位：ポンド当たりドル、日付はニューヨーク現地時間）（出来高は枚、1枚は100トロイオンス）【2022年12月5～9日】						
	12月限	1月限	2月限	3月限	4月限	推定出来高
5日	3.7895	3.7925	3.7950	3.7950	3.7975	78,986
6日	3.8125	3.8160	3.8180	3.8180	3.8210	64,797
7日	3.8585	3.8585	3.8610	3.8605	3.8630	63,235
8日	3.8805	3.8825	3.8850	3.8835	3.8845	63,909
9日	3.8760	3.8775	3.8795	3.8785	3.8805	63,438

三協立山「エクステリアデザインコンテスト」 大賞に積水ハウス、中部建商

三協立山は、同社製エクステリア商品を使った施工事例やプランニングを募集する「ワンダーエクステリアデザインコンテスト」の結果を発表した。デザイン大賞は積水ハウス横浜シャーメゾン支店、プランニング大賞は中部建商が受賞。応募総数は4025点だった。

積水ハウス同支店は店舗併用賃貸住宅にアサードエクステリア「M.グローリア」を使用。水平ラインを強調したダイナミックフレームや機能門柱を組み合わせた印象的なデザイン提案が高評価となった。中部建商は2棟の建築物にファサードエクステリア「みられ」など7製品を使用。建築物は壁のほか、…



デザイン大賞を受賞した施工事例

コンステリウム 英で「低炭素・高強度アルミ合金」開発推進

コンステリウムは、低炭素かつ低コストの再生アルミ合金開発プロジェクト「CirConAl（Circular and Constellium Aluminium）」を主導すると発表した。英国の先進推進センター（APC）が1千万ポンド（約16億8千万円）を助成するプロジェクトは、英国におけるゼロエミッション車のためのサプライチェーン構築を支援するもの。

コンステリウムはブルネル大学ロンドン内にある技術センターで、アルミ1㌧当たりのCO₂排出量を5㌧未満に抑えたリサイクル材使用の高強度な合金を開発。コンステリウムの自動車構造・安全ビジネスユニット長であるフィリップ・ホフマン氏は「コンステリウムの高強度合金HSA6アルミ押出材と新たなスクラップ選別・製合技術を活用し、自動車メーカーなどに低炭素アルミ材を提供したい」と述べた。

アルミ製箔の11月販売 横ばい、9万2300㌧ 中国・河南明泰

中国アルミ事業を手掛ける河南明泰アルミは、11月の製品販売量が9万2300㌧で、前年同月比で横ばいとなった。CO₂フリー電気を全面的に利用し、ミスミグループ本社のCO₂排出量は約1012㌧の削減となる。また災害時の安全性も確保されていることから、BCPの観点からの事業継続性が向上する見通し。

…ミ箔は11月のアルミ圧延販売量が9万3200㌧だった。前年同月比では11%増の9900㌧だった。1～11月の累計が106万7900㌧となり、100万㌧を超えた。

2月に本社移転 ミスミグループ本社

ミスミグループ本社は、来年2月に本社を九段会館テラス（東京都千代田区）に移転すると発表した。オフィス環境を整え社員一人ひとりの創造性・生産性をさらに向上させることで、顧客・サプライヤーの「今」を積み重ねて進化する、オフィスへの移行を目指す考え。

新本社では、オフィス利用者とリモートワーク社員がミスミのモデル進化のために共創するスペースや環境、Iインフラを整備する。また九段会館テラスは90年の歴史を継承しつつ地球環境にも配慮されており、CO₂フリー電気を全面で利用。